

御 挨 拶

昭和20年8月1日午後10時26分。焼夷弾洗礼の瞬間。思い出してもゾッとする忌わしき日。あれから早くも一年の月日は流れた。此の日に倒れられた人約2,000名、焼失家屋12,000戸。之れだけの大きな痛手を負って此の一年間長岡市民は本当に七転八倒の苦しみを味わって来た。

私共は今日其の一周年記念日を迎えて先ず犠牲者の身の上に思いを馳せ、その御冥福を祈る真情切々たるものを覚ゆると共に、更に遠く明治維新戦災焦土の状況をも聞き伝えに想起して今後復興の為如何に善処すべきかと日夜痛心措かざるものである。資材、資金、労力、技術、食糧等万事が極めて悪条件の中を市民は真に悪戦苦闘して復興に努力し伝統のネバリを発揮してきた。今の処当市の復興振りは全国有数であり此の点誠に心強い限りであるが、裏面は血の苦しみを味わいつつあると言っても過言ではない。此の茨の道を克服して進む為に私共は此の日を復興の為の意義ある記念日とし一段の奮起精進を誓い以て犠牲者の霊を慰め度いと思える。

更に又私共は一層住み良い新長岡、理想郷長岡建設の為に戦時中解体せられた個人各商店横の連結を復活せしめ商都長岡の団結の力を発揮したいと考える。そして大いに頑張ろう。維新先輩の努力を噛みしめて進もう。

以上の趣旨を以て茲に戦災一周年の記念日をトして敢て復興祭の式典を設け附随的に各種の行事を取り行うこととした。冀くば参列各位の絶大なるご支援を賜らんことを。

一言以て開会のご挨拶と致します。

昭和21年8月1日

新潟県商工経済会
中越支部長 駒形十吉